

## 「温暖化防止・ストリート」の由来

このストリート（街角）で温暖化防止について語り、情報や人の環が広がっていくことが、温暖化防止への道（ストリート）につながることを願っています。一緒に歩いてみませんか。

## 気候ネットワーク

～わたしたちはめざします～

1. 抜本的な国内対策で京都議定書の6%削減を！
2. 環境重視の社会経済システムを！
3. 市民・地域主導で温暖化防止の促進を！
4. 政策決定プロセスに市民の参加と情報公開を！
5. 南北の公平をめざし、南の人々と連携を！

## 目次

- ・用語解説  
「数値目標、約束期間」……………P.1
- ・団体会員紹介  
「足温ネット」……………P.2
- ・新年の挨拶・こんなことできる…P.3
- ・「環境家計簿活動」の紹介・本の紹介・ボランティアの声……………P.4

# 温暖化防止

# ストリート

街角

道



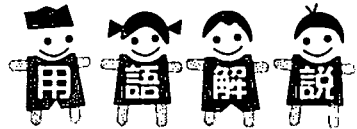
# 第5号

2004.1.1

気候ネットワークの会員同志のつながりを強め、その環を一層多くの人に広げたいと思い、この「温暖化防止・ストリート」を発行しています。

よく聞くけど

## 「ん？」何だったかなーっと思う



## 用語：数値目標・約束期間？

京都議定書では「日本は温室効果ガスを1990年を基準として第一約束期間に6%の削減が義務づけられています。この数値目標の割当量と約束期間について見てみましょう。

各先進国が約束期間に排出の許される量は、基準の年の排出量と数値目標から初期割当量として定められています。日本の場合、12億3310万t-CO<sub>2</sub>（基準年の排出量）×94%×5年=57億9557万t-CO<sub>2</sub>が割当量<sup>※</sup>となっています。したがって「第一約束期間」である2008～2012年の5年間の総排出量を、この割当量より少なくする必要があります。温室効果ガスの排出量は気象条件に大きな影響を受けることもあるため、目標を達成する年は1年でなく、約束期間として5年間となっています。仮に目標の年が極端

な冷夏と暖冬で排出量が少なくなり、対策をしないで削減目標が達成されることを避けるためです。

京都議定書では、2013年以降の第二約束期間に関しては2005年末までに検討を開始することになっています。もう既に様々な議論が始まっていますが、地球温暖化を防止するには、京都議定書を早急に発効させ、第二約束期間では一層大きな削減目標に合意して温暖化対策を進めることが不可欠です。

※注意：代替フロン類については1995年を基準年としてもよいことになっています。ここで使用している割当量の数値については2001年度時点の数値であり、この数値は2006年度末に確定します。

関連記事：気候ネットワーク通信34号2頁及び4頁

# 各地で活躍する仲間たち

気候ネットワークの団体会員の紹介です。

今号は  
東京

今回は、東京都江戸川区にある、「足元から地球温暖化を考える市民ネット・えどがわ」の紹介です。副代表理事でもあり事務局長でもある山崎求博さんから紹介していただきました。

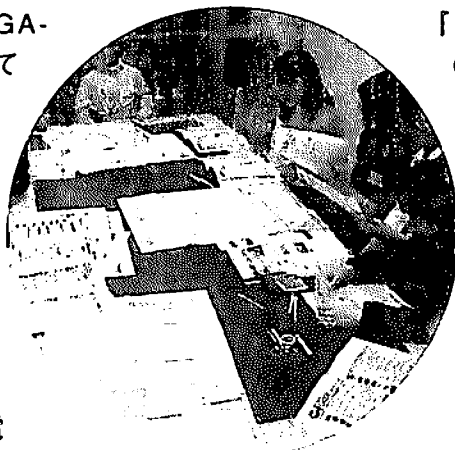


山崎求博さん

## ■ 地域レベルで市民主体に

私たちはこれまで、地域において市民主体の地球温暖化対策を考え行動してきました。まず、1997年に区内の自動車解体業者と協力して廃棄カーエアコンからフロンガスを回収する市民プロジェクトを立ち上げ、これを江戸川区の事業として実施させることができました。また、原発や揚水発電などの電源立地地域の人々との交流を通じ、彼らが抱える不安や環境破壊を目の当たりにして、1999年には区内のお寺の屋根に太陽光発電による「市民立発電所」（出力5.4kW）を建設しました。この発電所を支えるために、会では太陽光発電の環境への優しさを付加価値として位置づけて、市民版グリーン電力証書「EDOGAWAT」を作り市民向けに販売しています。こうした活動を通じて、私たちは市民活動の可能性を実践的に示してきました。

そして、現在取り組んでいるのが省エネルギーを通じた「節電所」づくりの試みです。省エネはそれ自体が余剰エネルギーを作り出すという点で「発電」と同じ意味があります。家電製品の省エネ化が進む中、家庭でもそうした製品を選ぶことで努力や我慢に頼らない省エネが可能と考え、「ECOエコ省エネゲーム」（合同出版<http://www.godoshuppan.com/game/sho-ene/shoukai.html>）を考案したり、買い替えによって未来に得する電気料金の部分を先に無利子で融資する「省エネ家電買い替えモニター事業」を実施しました。家庭1軒1軒の削減できる電力は小さいかも知れませんが、地域で寄り集まればこれはちょっとした発電所になります。こうした取り組みは、環境省の募集した政策提案で優秀提案に選ばれました。



## ■ 多彩なメンバーたち

会の活動は、5人の理事メンバーと2~3人の運営会員からなる運営委員会を月1回開いて、その中で相談して決めています。メンバーはいずれも他のNGO/NPOで活躍する人たちばかりで、職業も住職に区議会議員、サラリーマンと様々です。私たちは、それぞれの得意分野を生かしながら、自分たちが楽しむことによって、多彩な事業を展開してきました。

## ■ 気候ネットワークとの関係

1996年12月の設立以来、気候ネットワークの前身「気候フォーラム」の頃から積極的に活動へ参加してきました。会が作成した「とっても分かりやすい地球温暖化の話」の原稿は気候フォーラムのブックレットに用いられましたし、京都會議でも様々なイベントを開催してきました。また、気候ネットワーク設立後も理事を出したり、地域での活動事例を発信するなど、深い関わりを持ち続けています。

省エネゲーム・ワークショップの様子



## ● Eco・エコ省エネゲーム これぞ究極の地球温暖化防止法

田中優十今井邦人【著】  
B5判・並製・128ページ  
全国書店にて販売  
刊行：合同出版

- 本とキット=2,600円+税
- 本のみ =1,600円+税
- キットのみ=1,200円+税

特定非営利活動法人 足元から地球温暖化を考える市民ネット・えどがわ  
〒132-0033 東京都江戸川区東小松川3-35-13-204  
TEL：03-3654-9188 FAX：03-3654-4727  
E-mail：yamachan@jca.apc.org



2004年を迎え、ご挨拶申し上げます。本年もよろしくお祈りします。



地球温暖化と京都議定書をめぐる問題には、世界と日本の歴史のすべて、国際政治と国連、国の税財政、エネルギー政策、都市づくり、まちづくりなどなど、現代社会で解決すべき問題が凝集しています。若者にとってこれほどの学び舎はありません。しかも、予防原則を現実にかすためには、市民の科学・技術と経済学と法学、哲学が必要です。

私たちは今、温暖化の脅威に否応なく直面しつつある一方で、一人ひとりの個人が自分たちの未来を世界の歴史とともに作り出すことに参加ができるかもしれないという、先人たちが経験したことの無い時代を生きているのです。戦力や経済力ではない、人類の英知による国際社会の創造的選択こそが私たちの希望のみなもとです。京都議定書を生み出したという自負心を糧として、今年こそ京都議定書を発効させ、希望を育てていきましょう。

浅岡美恵



世界は国際法を無視したルールなき強者の時代。京都議定書が壊されずに発効をめざして奮闘しているのは「奇跡」でもあります。

その力の源は、市民理性ではなく年々深刻化している「気候の危機」の進行でしょう。太陽光発電を自宅に設置した人は、大まかにいえば100万円前後を地球にカンパしています。そのネットワークが立ち上がりつつあります。

自治体のエネルギー政策や脱温暖化政策も本格化しています。

使い捨て削減を求めて容り法改正運動が始まりました。省エネ、ベレット普及、脱フロン、LRTの運動も飛躍を目指しています。

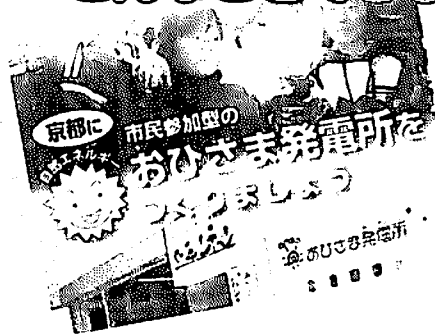
議論より行動、批評より実践。途方もない大難題も、たった一人の努力から解決の糸口が生まれる歴史体験に見習い、激せず阿らず、着実な歩みを続けたいものです。

須田春海



## 温暖化防止

こんなことできる！



このコーナーでは、「家庭・個人」・「地域・グループ」のできる効果的な温暖化対策を紹介していきます。

## 今回のテーマは 「市民参加による共同発電所」

自然エネルギー普及、手軽に参加できる市民共同発電所づくりが各地に広がっています。(倶楽部ネットワーク通信34号7頁参照)

「太陽光パネルは値段が高いから」「うちはマンションだから設置場所がないので」などの理由から、自然エネルギーは大切だと思っても、太陽光パネルを取りつけるのをあきらめている人はいませんか？実はこのような市民が集まって、共同で太陽光の発電所をつくる市民共同発電所という運動があります。

「市民が共同で」というと何か難しそうに聞こえますが、そんなことはありません。費用が高いため、それをみんなで分担する。自宅では屋根がないので、屋根があるところにみんなで

1つの発電所をつくる。これが市民共同発電所づくりの活動です。多くの人に参加できるように寄付金は一口3,000円～5,000円程度に設定されています。また設置場所は主に幼稚園や保育園などが多いので、設置後も発電所はただの発電所ではなく、環境学習の場としても利用されます。

自然エネルギーを普及させ、温暖化防止につながる取り組みに大きな負担なく参加できることが市民共同発電所づくりの特徴です。みなさんもぜひ参加してみてください。

気候ネットワーク自然エネルギー普及研究会 清水玄太

## 「環境家計簿」とは一体何なの？

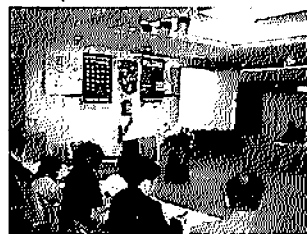
気候ネットワークは環境家計簿の普及に取り組んでいます！

環境家計簿

近年、地球温暖化問題への関心は、行政や企業レベルだけではなく、市民の間にも高まっています。しかし、市民レベルでは、意識の高揚ほどには行動が繋がっていないというも事実です。家庭部門からのCO<sub>2</sub>（二酸化炭素）の排出量が著しく増加傾向にあることが、このことを如実に物語っているのではないのでしょうか。

このため、気候ネットワークでは京都市民を対象に省エネ型ライフスタイルの確立を目的とした「環境家計簿」の普及活動を、京都市と協働で推進しております。

具体的には、①事例を挙げた、取り組みやすい「環境家計簿」の開発、②「なぜ環境家計簿をつけるのか」の理解を深め、自発的・持続的な行動につなげる環境教育の実施、③電気・ガスなどエネルギーの浪費を抑える取り組み状況の診断などを行っています。この取り組みから市民の手による社会作りの萌芽が見られ、「コミュニティバスを走らせる運動」にまで発展させた団体もあります。また、最近では学習会への参加者も増加し、タクシー会社などの企業や各種団体からの参加希望が相次いでいます。



家計簿の取り組みの流れを説明している様子

立命館大学社会学研究科・気候ネットワークインターン 河原鞠子

お勧めの本の紹介です。

## 本の紹介

紹介者：平岡俊一（気候ネットワーク 地域温暖化防止研究会・コーディネーター）

### 「月刊自治研・Dec 2003・vol.45 no.531」

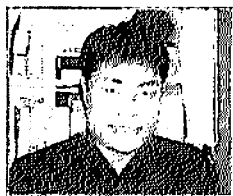
発行：自治研中央推進委員会事務局

自治研中央推進委員会事務局が発行している「月刊自治研」では、毎回地方自治に関連した特集が組まれています。2003年12月号では「地球温暖化と自治体責任」という特集が組まれており、自治体レベルでの温暖化対策に関する論文、各地の事例報告などが掲載されています。多くの論文や報告は、現場で実際に関わっている人たちによって書かれたものなので、最近の自治体レベルでの取り組みの動向が具体的に記述されています。京都市の事例報告として地球温暖化防止条例協働提案についての取り組みが掲載されています。是非ご一読下さい。

<定価600円 135ページ>



## ボランティアの声



東京ボランティア 富安 樹さん

気候ネットワークでは  
たくさんのボランティアが  
一緒に活動しています。  
そのボランティアからのコメント！

東京事務所でボランティアを始めて約半年になります。大学の卒業論文のテーマが地球温暖化だったので、そのときに気候ネットワークのことを知りました。卒業してからは時間が余っているので、ボランティアとして活動することにしました。今は、少しでも学ぼうと思って、イベントなどにもなるべく出るようにしています。あまり活動的でないほくでも意外と長く続けているのは、温暖化問題に興味があるのと、楽しく活動できているからでしょう。わからないことはやさしく丁寧に教えて頂けるのもその一因です。基本的にマイペース人間なので、これからもそれなりに頑張っていきたいと思います。よろしくお願いします。



## 編集後記

明けましておめでとうございます。

3ページの須田副代表の挨拶文で、「阿らず」という言葉ができました。これは「おもねらず」と読むそうですが、私も頭のきれる元スタッフのK氏も読めませんでした。事務局長は読めました。「さすが語彙の豊富な事務局長！」一さっそく私は阿っています？

今年もみなさまにわかりやすく・楽しいストリートをお届けできるようがんばりますので、今年もどうぞよろしくお願いたします。

(おかゆ)



特定非営利活動法人 気候ネットワーク

代表：浅岡美恵 / 副代表：須田春海 / 事務局員：田浦健明

URL : <http://www.jca.apc.org/kikonet/>

「温暖化防止・ストリート」5号  
2004年1月1日発行（隔月1日発行）  
編集・DTP：岡塚子

京都事務所（本部）  
〒604-8124 京都市中京区高倉通四条上る高倉ビル305  
TEL：075-254-1011 FAX：075-254-1012  
E-mail：kikonet@jca.apc.org

東京事務所  
〒102-0083 東京都千代田区麹町2-7-3半蔵門ウツドフィールド2F  
TEL：03-3263-9210 FAX：03-3263-9463  
E-mail：kikotko@jca.apc.org

本誌は100%再生紙と大豆インクを使用し、廃棄物による自然エネルギーで印刷しました。



郵便振替口座：00940-6-79694（加入者名：気候ネットワーク）  
銀行振込口座：東京三菱銀行 京都支店 普通口座 1370852（気候ネットワーク）